

# 写真の無断保存・使用をする人の情報モラルについて

櫻井 宏樹 (22011142hs@tama.ac.jp)

## 1. はじめに

研究の背景として、近年はスマホのカメラ技術の進歩により誰でも綺麗な写真を撮ることができる世の中だが、自分が撮影した写真が他人に使用されたり・許諾していないのに営利非営利関係なく他サイトやSNSに無断で保存・使用・転載されている。

2018年には山形県の鶴岡市の観光物産課が写真の撮影者に許諾を得ないまま市のホームページ・観光パンフレットに掲載されていて問題になるなど、近年写真など著作物の無断使用が問題になっている。

研究の目的は大きく分けて2つあり、

1つ目に「写真を撮った人に確認も取らずに、写真などの著作物を無断で保存・使用している人は罪悪感がなく悪いこと(NG行動)ではないと思っているのではないか」と感じた為、アンケート調査を用いて実際にSNSで著作物の無断保存・使用を行った方々になぜ行ってしまったのかを意識の調査します。

2つ目に「撮影者も自分が情熱を込めて撮影した写真を無断保存・無断使用されない様に対策を施していないのではないか」と感じた為、1つ目の目的と同様にアンケート調査を用いて、SNSを使っている方々に対して、どのような対策をどの程度行っているか調査します。

## 2. 先行研究の分析

「自他の権利尊重に関する情報モラルに影響する個人内特性の検討—自尊感情及び他者理解力に焦点を当てて—」(阪東・市原・森山, 2014)

本研究で「自他の権利尊重」に関する情報モラルには、自尊感情と他者理解力という個人内特性が影響を与えると考え、国立 教員養成系大学の大学1年生139名 (男子大学生63名, 女子大学生76名)を調査対象とした調査を行った。

その結果の中で、相手の気持ちや考えを汲み

取り相手の立場に立って考えることのできる他者理解力の高い人において、個人情報保護に関する情報モラルに対する意識が高くなると推察されると明かしている。

## 3. 研究方法

研究方法は2つになります。

1つ目に、無断転載の現状や情報モラル・著作権法に抵触する著作物の使用・保存の例など世の中にある多くの資料から今回の卒業論文に必要な情報を調査する、資料調査を行うことを予定しています。

2つ目に研究の目的のところでも述べたように実際に日常的にSNSに関わりのある18歳から29歳を対象にしたアンケート調査を行うことを予定しています。

## 4. 今後の課題とスケジュール

今後のスケジュールは下記を予定、

6月下旬→アンケートの設計完了

7月中旬～8月上旬まで→アンケート調査

9月上旬→アンケート集計

9月中旬→卒業論文執筆

12月中旬→卒業論文完成

アンケートの集計と並行して、資料調査・論文研究の実施

今後の課題は、先行研究の分析、卒業論文章立て・構成の検討を進め、ゼミの仲間や教授に助言を頂きたい。

参考文献

自他の権利尊重に関する情報モラルに影響する個人内特性の検討

—自尊感情及び他者理解力に焦点を当てて—」(阪東・市原・森山, 2014)

[https://drive.google.com/drive/folders/1J6zml85eh3AqwXWn\\_Fd40v1ZKdfEej9A](https://drive.google.com/drive/folders/1J6zml85eh3AqwXWn_Fd40v1ZKdfEej9A)